

# 第5回委員会での指摘事項と対応方針

平成31年3月5日

国土交通省中部地方整備局  
三峰川総合開発工事事務所



分類	指摘事項	対応方針・対応	備考
運用計画 (基本方針)	運用方法については、全開操作を積極的に行う場合、操作の自動化は考慮できるが、影響の発生を最小限に抑えることに重点を置く場合は手動で考えざるを得ない。自動化の計画をしても早急に実施することは難しいので、今後検討すべきである。	試験運用結果を踏まえ引き続き検討する。	(H33年度以降) 試験運用の結果を踏まえ必要に応じて操作見直し
試験運用計画	試験運用期間の早期に全開操作・制御操作①の基本パターンを実施し、課題を洗い出すこと。	全開操作も含めて試験運用を計画している。	第5回委員会で説明
	ストックヤード内の土砂流出過程の調査は、土圧計やCCTVによる目視で問題ないと思われるが、カメラとレーザースキャナの組み合わせによるストックヤード内の水面形把握も可能と思われるので、検討に加えること。	カメラとレーザースキャナの組み合わせを活用した施設モニタリング計画を検討する。	今回検討(資料-4 2. 施設モニタリング調査計画で説明)
	濁度計は異常値が出やすく、濁りの強い流水でどこまで正確に計測できるかわからない。濁度計設置にあたり観測値の信頼性を確保するよう今後検討すること。これについては委員等に相談すること。	濁りの監視機器の精度確認試験を行い、監視基準(SS89,500mg/L)を精度よく計測できる機器を選定した。	今回検討(資料-4 1. 環境モニタリング調査計画で説明)

分類	指摘事項	対応方針・対応	備考
モニタリング計画 (施設)	危機管理の観点から見た運用計画についても整理すること。異常気象による出水が発生した場合に何を守るべきか・維持すべきか、バックアップは何かを今の段階から検討しておく必要がある。	施設運用中に湖内堆砂対策施設が機能不全となった場合の対応について整理する。	今回検討(資料-5 2.危機管理を踏まえた運用計画の留意点で説明)
モニタリング計画 (生物環境)	環境(生物)への影響を考えるにあたり、濁度の連続データは重要なので、確実な観測を期待したい。	確実にデータが取れるよう、機器の選定、設置位置の設定を実施する。	今回検討(資料-4 1.環境モニタリング調査計画で説明)
モニタリング計画 (水環境)	天竜川への影響は、試験運用で流量、濁度がどのようにピーク低減するかを検証していくことがポイントである。	今後、濁度データ分析の際に留意する。	(H33年度以降) 試験運用時のデータの縦断的な低減状況を検証